

# 研究成果報告書（第26回学術研究助成）

2019年 3月 31日

公益財団法人 藤原ナチュラルヒストリー振興財団  
理事長 野村茂樹 殿

所属機関名 独立行政法人 国立科学博物館  
職 名 研究主幹  
氏 名 海老原 淳

## 1. 研究課題

日本産シダ植物に関する分類学的一次資料の網羅的再検討とポータル整備

## 2. 共同研究者

なし

## 3. 研究報告

### I. 研究の目的

日本産シダ植物に対して使用されたことのある全ての学名について、その一次資料（原記載・タイプ標本）の所在情報を収集し、その内容を再検討することにより、日本産種の学名の安定化を図る。同時に、散在している電子化された一次資料へのポータルサイトを整備することによって、将来の分類学的研究の迅速化・効率化に貢献する。

特色： 分類学的一次資料の重要性は従来から認識されてきたが、世界に散在する膨大な量の資料への網羅的アクセスは過去には現実的ではなかった。近年になって多様な主体によって歴史的文献・タイプ標本の電子化が急速に進んだ結果、日本産種についても相当数の一次資料がオープンアクセスの形態でweb上で公開された状態になっている。しかしそれらの資料は様々な機関のデータベース・サイト中に散在しており、体系的には把握されていない。本研究では、現在は用いられることの少ない異名まで含めた全ての日本産シダ植物の学名について、それらの所在を網羅的に把握して再検討し、現在の分類学的取り扱いの妥当性を自ら再検討する。収集した一時情報へのリンクはポータルサイトを作成・公開することによって、将来に渡って多数の研究者が容易にアクセス・再検討できる理想的な状態を実現できる。

### II. 研究の方法

申請者の最新の研究成果に従うと、日本産シダ植物には740種（亜種・変種含む）と約350の雑種分類群が認められる。現在は異名として扱われているものまで含めると、日本産シダ植物に対してこれまでに用いられた学名は2800を上回る。本研究ではそれら全ての学名を対象とし、以下の手順で研究を進めた。

- 1) 学名の出典の把握（書誌名・巻号・頁・出版年 等）
- 2) 1)の文献がweb公開されている場合、そのURLを収集。（Biodiversity Heritage Library, 雑誌の公式サイト、大学等のレポジトリ、google books等を探索した）

3) 2)の文献の内容を吟味し、国際命名規約に照らして有効・正式な出版であるか、命名者名が妥当であるかを検討した。

4) 基礎異名の把握（学名が組替えの場合）

5) 各基礎異名について、文献中からタイプ標本の情報（産地・採集者・採集者番号・採集日・収蔵機関等）を収集した。

6) レクトタイプ・ネオタイプ等の選定が行われている場合は、その文献と標本の情報を可能な限り把握した。

7) 5)と6)のタイプ標本がweb公開されている場合、そのURLを収集。（JSTOR Global Plants, 各機関のタイプ標本データベース, 標本画像が掲載された文献 等を探索した）

8) タイプ標本の画像を検討し、現在の分類学的取扱いが正当であるかどうかを確認した。

9) 各学名から分類学的一次資料へのリンクを集約したポータルサイトを作成・公開した。

### III. 研究結果

日本産野生種1096種（亜種・変種・雑種含む）に対して、4096の関係学名が収集され、その中には基礎異名1751件、誤用2件、検討を要するもの118件が含まれていた。1751件の基礎異名に関して、1435件(81.9%)はweb上に原記載文献が公開されていた。また、753件(43%)は1点以上のタイプ標本画像がweb上で公開されていた。レクトタイプ・ネオタイプの選定された学名は95件が確認されたが、まだ多数が見逃されている可能性がある。

原記載や原発表を精査した結果、GreenList ver. 1.01で採用した学名の著者に修正が必要になる事例が複数確認され、次回更新時に反映予定である。また、タイプ標本の画像を詳細に検討した結果、ハリガネワラビ *Thelypteris japonica* などいくつかの種では現在採用している学名に再検討の余地が生じ、今後論文において学名の取り扱い変更を提案する予定である。

### IV. 考察

日本産シダ植物に関して、分類学的に重要な関係資料がweb上に予想以上に多く存在していることが把握され、本研究で作成されたポータルサイトを經由して容易にアクセスすることが可能になった。一方で、日本の研究機関に所蔵されたタイプ標本および日本で発行された文献には、未だweb公開に向けた動きがないものが多く、国際的な重要性を鑑みて、早急にオープン化の取り組みを進める必要があると考えられる。

### V. 成果発表

Index to Ferns and Lycophytes of Japan（日本産シダ植物インデックス）<http://jp.fern.la.coocan.jp/names>

海老原淳，総谷文清，大西亘，片山なつ．日本産シダ植物の分類学リソースポータルサイト構築．日本植物分類学会第18回大会，2019年3月7日-9日．首都大学東京 南大沢キャンパス．

### VI. 今後の課題

現時点で本ポータルに含めている学名のシノニムは、日本から記載された学名と日本の文献で採用されたことのある学名に限定されている。しかしながら広域分布種の多いシダ植物では、「海外で用いられている日本産種のシノニム」もさらに多数存在している。今後はより学名の網羅性を向上させていく必要がある。同様に本ポータルで収集した倍数性・染色体数情報も、海外からの報告を網羅していく必要がある。



日本産シダ植物  
インデックス

英名 漢名 学名

ホーム

英語 | 日本語

本サイトについて

- ▶ 日本に自生するシダ植物（シダ類と小葉類）の採用学名と異名のチェックリストです。
- ▶ 各学名の出典・タイプ情報・染色体数情報を網羅しています。
- ▶ 原記号・タイプ標本画像・その他有用な情報への外部リンクを設定しています。

▶ [チェックリストへ](#)

Home > Checklist

Family: Hymenophyllaceae コクシノブ科 > Genus: Crepidomanes (C. Presl) C. Presl アオホラゴケ属  
GreenList Taxon ID: 111

Accepted name  
**Crepidomanes latealatum (Bosch) Copel.**

アオホラゴケ  
和名別名: オガサワラホラゴケ

GBIF YList

Basionym and homotypic synonym(s)

Diomyglossum latealatum Bosch, Ned. Kruidk. Arch. 5[2]: 136, 1863. BM. Tropicos  
≡ Trichomanes latealatum (Bosch) H. Christ, Verh. Naturf. Ges. Basel 11: 424, 1896. BM. Tropicos  
≡ Crepidomanes latealatum (Bosch) Copel., Philipp. J. Sci. 6[7]: 60, 1938. LHM. Tropicos  
▶ Type information in the protologue: Griffiths, H. Hook. (India orientalis (Nepal), (Assam))

Digitized type material:

Herbarium & Reg. No.	Type status	Collector & No.	Locality	Coll. date
K000235197	isotyp?	Griffiths, W., #s.n.	E. Ind.	

作成されたポータルサイト（左：日本語トップページ、右：種情報詳細ページ）